



## 2025年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年5月9日  
東

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所  
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)木村 成克  
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役 (氏名)小田 俊一 (TEL) 03-3249-2381  
 定時株主総会開催予定日 2025年6月27日 配当支払開始予定日 2025年6月30日  
 有価証券報告書提出予定日 2025年6月27日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年3月期の連結業績(2024年4月1日~2025年3月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期	32,519	3.1	2,880	92.7	3,052	43.5	2,136	44.8
2024年3月期	31,550	12.9	1,495	140.1	2,127	190.8	1,475	196.0

(注) 包括利益 2025年3月期 3,135百万円(11.8%) 2024年3月期 2,803百万円(264.2%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年3月期	77.91	—	14.1	10.7	8.9
2024年3月期	53.95	—	11.9	8.0	4.7

(参考) 持分法投資損益 2025年3月期 30百万円 2024年3月期 △72百万円

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期	29,405	16,618	56.5	605.50
2024年3月期	27,507	13,711	49.8	500.79

(参考) 自己資本 2025年3月期 16,618百万円 2024年3月期 13,711百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年3月期	3,701	△520	△2,171	3,313
2024年3月期	2,108	△227	△1,791	2,305

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2024年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00	246	16.7	2.0
2025年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00	411	19.3	2.7
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00		25.7	

## 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	31,900	△1.9	2,100	△27.1	2,300	△24.6	1,600	△25.1	58.35

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無  
 新規 一社(社名)― 、除外 一社(社名)―

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期	35,000,000株	2024年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期	7,553,429株	2024年3月期	7,620,679株
③ 期中平均株式数	2025年3月期	27,420,672株	2024年3月期	27,350,459株

(参考) 個別業績の概要

1. 2025年3月期の個別業績(2024年4月1日~2025年3月31日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期	22,244	5.2	2,493	139.7	2,614	50.7	1,833	48.4
2024年3月期	21,151	9.7	1,040	303.1	1,734	450.1	1,235	502.4
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2025年3月期	66.86		—					
2024年3月期	45.17		—					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
2025年3月期	26,558		14,710		55.4	535.96		
2024年3月期	24,838		12,174		49.0	444.67		

(参考) 自己資本 2025年3月期 14,710百万円 2024年3月期 12,174百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	3
(4) 今後の見通し .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 連結貸借対照表 .....	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	7
連結損益計算書 .....	7
連結包括利益計算書 .....	8
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(1株当たり情報) .....	13
(重要な後発事象) .....	14

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンドによる外国人観光客の増加から緩やかな回復基調にて推移しました。一方、エネルギー価格の高止まりや円安の影響を受けた継続的な物価上昇が相まって、実質賃金はマイナスに転じ消費マインドの改善には足踏みがみられています。先行きについては緩やかな回復が期待されますが、中国や欧州経済の下振れリスクや中東地域を巡る情勢、トランプ大統領就任後の米国の政策動向の影響に十分注意を要する環境となっております。

このような環境の中で、当社グループはお客様、地域社会、関係取引先、従業員及びその家族の安全と健康を確保することを最優先に、生活必需品である砂糖や、オリゴ糖をはじめとした機能性素材等の製品を安定して消費者の皆様にお届けすることを第一義に考え、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、砂糖事業及びバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んでまいりました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

#### ①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）において22.65セントで始まりしました。砂糖主要生産国であるブラジル中南部でサトウキビの圧搾が順調に進んだこと、さらには好調な砂糖輸出ペースを背景に8月中旬に安値17.52セントを付けましたが、9月中旬に入ると同地域における長引く乾燥や圃場火災の影響を受け、収穫見通しが悪化したことから高値23.71セントを付けました。その後、ドル高により投機資金が商品市場から流出、1月には主要生産国インドが砂糖輸出制限を緩和し、一時17セント台まで下落しましたが、期末にかけてブラジル通貨レアルが対ドルで上昇し輸出意欲が減退するとの観測が広がったことから相場は再び上昇、結局18.86セントで当期を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初249円～251円で始まり、同水準のまま当期を終了しました。

精糖及びその他糖類など国内販売では、家庭用製品が低調に推移したものの、業務用製品が観光需要の回復やインバウンドの増加、夏場の飲料ユーザー向けや年末イベント需要等が好調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。

上記に加え、適正価格での仕入・販売に努めました結果、砂糖事業全体の売上高は30,864百万円（前連結会計年度比4.1%増）、セグメント利益は3,858百万円（前連結会計年度比67.8%増）となり、それぞれ過去最高を更新いたしました。

#### ②バイオ事業

オリゴ糖部門は、コロナ禍以降、オリゴ糖ブームが継続する中、タレント・美容家のI K K O氏を起用し、新たに美容意識の高いユーザーの取り込みに注力、イベント開催等の企画をしたことから、家庭用を中心に堅調に推移しました。特に大容量タイプなどコアユーザー向け製品の販売が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

サイクロデキストリン部門は、販売アイテムの集約などにより、売上高は前年同期を下回りました。

ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に展開しましたが、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、バイオ事業全体の売上高は1,625百万円（前連結会計年度比11.5%減）、セグメント利益は316百万円（前連結会計年度比23.3%減）となりました。

#### ③その他

その他の事業につきましては、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は135百万円（前連結会計年度比0.5%増）、セグメント利益は77百万円（前連結会計年度比18.3%増）となりました。

以上の結果、当期の売上高は32,519百万円（前連結会計年度比3.1%増）、営業利益は2,880百万円（前連結会計年度比92.7%増）、経常利益は3,052百万円（前連結会計年度比43.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,136百万円（前連結会計年度比44.8%増）となり、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益はそれぞれ過去最高を更新いたしました。

## (2) 当期の財政状態の概況

(資産、負債及び純資産の状況)

### ①資産

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べて1,898百万円増加し、29,405百万円となりました。

これは主に、商品及び製品106百万円、機械装置及び運搬具（純額）125百万円、投資有価証券1,617百万円が、それぞれ増加したことによるものであります。

### ②負債

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,009百万円減少し、12,786百万円となりました。

これは主に、未払法人税412百万円が増加した一方で、短期借入金1,600百万円が減少したことによるものであります。

### ③純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2,907百万円増加し、16,618百万円となりました。

これは主に、利益剰余金1,882百万円の増加、その他有価証券評価差額金950百万円の増加であります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて1,008百万円増加し、3,313百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、3,701百万円（前連結会計年度比1,592百万円の増加）となりました。

これは主に、税金等調整前当期純利益3,093百万円、仕入債務の増減額212百万円による資金の増加があった一方で、法人税等の支払565百万円による資金の減少があったことによるものであります。

### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、520百万円（前連結会計年度は227百万円の資金支出）となりました。

これは主に、貸付金の回収による収入931百万円等による資金の増加があった一方で、有形固定資産の取得による支出553百万円による資金の減少があったことによるものであります。

### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、2,171百万円（前連結会計年度は1,791百万円の資金支出）となりました。

これは主に、借入金の純減額1,925百万円による資金の減少があった一方で、配当金の支払246百万円による資金の減少があったことによるものであります。

### ④資本の財源及び資金の流動性

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原料糖の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債の残高は8,248百万円となっております。

#### (4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、当社グループを取り巻く環境は、各種経済政策の効果が下支えとなって実質賃金の上昇、個人消費の持ち直しが期待される一方、長期化するエネルギー価格の高騰や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動等の影響から先行きは不透明な状況が続いております。

かかる環境の下、当社及び当社グループは、国民の生活を支える基礎的食品である砂糖や、オリゴ糖をはじめ健康付加価値のある機能性素材等を、消費者の皆様へ安定してお届けすることを第一義とし、政府の食料安定供給に関する指針に沿い、非常時においても安全安心な製品を安定的に供給することが食品会社に課せられた使命であるとの認識の下、品質管理及び危機管理体制の強化、環境変化にも適応した事業体制の構築と経営基盤のさらなる強化に努めてまいります。

また、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかによさしい会社」を中長期的な経営ビジョンと位置付け、以下の各事業を推進してまいります。

砂糖事業につきましては、高甘味度甘味料などの台頭により、砂糖消費量が年々減少傾向にあります。このような状況ではありますが、事業の維持・成長には身体の大事なエネルギー源である砂糖の正しい知識をお客様へお伝えし消費量の減少に歯止めをかけること、また収益基盤を整えていくことが必要であります。その中で、前期は原料高もある中、お取引先様・お客様に深いご理解を頂きながら、適正価格での販売に努めてまいりました結果、一定の収益改善に至りました。引き続き収益基盤を整えるべく、砂糖市場の再活性化にもチャレンジしてまいります。

バイオ事業につきましては、オリゴ糖事業において、「オリゴのおかげ」シリーズがコロナ禍を受けて大きく伸張し続けてまいりました。一昨年美容家 I K K O 氏をメインキャラクターに起用し、健康意識に加え、美容意識への関心が高い方への販促活動にも取り組むなど、新たな顧客層への販売にも積極的に取り組んでおります。

一方で、オリゴ糖市場に対するお客様のニーズも多様化しております。オリゴ糖市場の拡大とともに増加したライターのニーズにもお応えし、さらなるオリゴ糖事業の成長を図るべく、「さとうきびオリゴ」を昨年秋に発売いたしました。自然豊かな奄美のさとうきびを原料としたブラウンタイプのフラクトオリゴ糖ですが、引き続き「オリゴのおかげ」シリーズとは別のニーズをお持ちのお客様へのアプローチにも注力してまいります。

ビーツ部門につきましては、ビーツ事業の収益化・第3の柱へと成長させるべく、第一弾として発売した『ビーツドリンク』のリニューアルも含め、今後の事業展開について現在検討を進めているところでございます。お客様のニーズを柔軟に取り入れ、工夫改善に努め、ビーツが身体に良いものとして国内で普及すること、当社ビーツ製品の売上の伸張につなげることを目指し、引き続き取り組んでまいります。

サイクロデキストリン部門につきましては、一層の技術改善等を行い、事業推進に努めてまいります。

新商品開発につきましては、生活に欠かせない砂糖の新たな価値を提供すべく様々な機能（保水、防腐、酸化防止等）に着目した新商品開発に取り組み、砂糖市場の活性化に向けアプローチし砂糖の未来を切り拓くべく全力を注いでまいります。

なお、大東製糖株式会社との業務提携の状況につきましては、「ユーモアな食品を提供し、未来を創る会社へ」をテーマに、「新事業・新商品開発」「既存事業強化」「販売体制強化」「さとうの未来を創る社会貢献活動」の4項目を協業の軸として、各取り組みを進めております。販売体制強化にあたっては両社の販売ノウハウや販売ルートを存分に活かすべく一部で協働体制を構築いたしました。さらには社会貢献活動につきましても、財団法人「クローバースマイルズアクト」の活動に共感し、今後、両社協同でビーチクリーンナップ活動を行うなど、協業体制の早期構築を図ってまいります。新商品開発につきましても現在具体的に進めているところでございますが、今後、皆様の投資判断に影響を及ぼす事項が決定した場合には、適宜、適切な情報開示を行います。

かかる状況を踏まえ、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高は31,900百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は2,100百万円（同27.1%減）、経常利益は2,300百万円（同24.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,600百万円（同25.1%減）を見込んでおります。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、国内での I F R S の採用動向を検討した結果、当面は日本基準に基づき連結財務諸表を作成する方針です。



## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,305	3,313
受取手形及び売掛金	2,531	2,061
商品及び製品	1,275	1,382
仕掛品	286	291
原材料及び貯蔵品	1,741	1,587
その他	1,191	1,119
流動資産合計	9,331	9,756
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,223	10,296
減価償却累計額	△7,822	△7,974
建物及び構築物(純額)	2,401	2,322
機械装置及び運搬具	12,225	12,671
減価償却累計額	△10,602	△10,922
機械装置及び運搬具(純額)	1,623	1,749
工具、器具及び備品	415	436
減価償却累計額	△380	△378
工具、器具及び備品(純額)	35	58
土地	5,185	5,185
建設仮勘定	189	93
有形固定資産合計	9,435	9,408
無形固定資産		
ソフトウェア	10	12
その他	6	6
無形固定資産合計	16	18
投資その他の資産		
投資有価証券	6,758	8,375
長期貸付金	1,617	1,520
繰延税金資産	276	275
その他	72	50
投資その他の資産合計	8,724	10,221
固定資産合計	18,176	19,649
資産合計	27,507	29,405

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,139	1,352
短期借入金	4,300	2,700
1年内返済予定の長期借入金	2,000	1,688
未払法人税等	356	768
未払消費税等	178	275
賞与引当金	63	63
その他	1,275	1,099
流動負債合計	9,313	7,947
固定負債		
長期借入金	3,873	3,860
退職給付に係る負債	185	108
繰延税金負債	191	656
その他	232	214
固定負債合計	4,482	4,839
負債合計	13,796	12,786
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	13,773	15,656
自己株式	△2,916	△2,890
株主資本合計	12,848	14,756
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	799	1,750
繰延ヘッジ損益	0	2
退職給付に係る調整累計額	63	109
その他の包括利益累計額合計	862	1,862
純資産合計	13,711	16,618
負債純資産合計	27,507	29,405



## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	31,550	32,519
売上原価	26,904	26,331
売上総利益	4,646	6,188
販売費及び一般管理費	3,151	3,307
営業利益	1,495	2,880
営業外収益		
受取利息	32	34
受取配当金	791	178
持分法による投資利益	—	30
為替差益	4	5
その他	13	24
営業外収益合計	840	273
営業外費用		
支払利息	93	92
持分法による投資損失	72	—
支払手数料	6	4
その他	36	4
営業外費用合計	208	101
経常利益	2,127	3,052
特別利益		
投資有価証券売却益	1	40
投資有価証券清算益	27	—
特別利益合計	29	40
特別損失		
減損損失	49	—
固定資産除却損	34	—
棚卸資産廃棄損	8	—
特別損失合計	91	—
税金等調整前当期純利益	2,065	3,093
法人税、住民税及び事業税	602	969
法人税等調整額	△12	△12
法人税等合計	590	956
当期純利益	1,475	2,136
親会社株主に帰属する当期純利益	1,475	2,136

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
当期純利益	1,475	2,136
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,230	951
繰延ヘッジ損益	1	2
退職給付に係る調整額	75	51
持分法適用会社に対する持分相当額	20	△5
その他の包括利益合計	1,327	999
包括利益	2,803	3,135
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,803	3,135

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	12,448	△2,946	11,493
当期変動額					
剰余金の配当			△136		△136
親会社株主に帰属する当期純利益			1,475		1,475
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△13		29	15
自己株式処分差損の振替		13	△13		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	—	1,325	29	1,354
当期末残高	1,750	241	13,773	△2,916	12,848

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	△433	△1	△30	△464	11,028
当期変動額					
剰余金の配当				—	△136
親会社株主に帰属する当期純利益				—	1,475
自己株式の取得				—	△0
自己株式の処分				—	15
自己株式処分差損の振替				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,232	1	93	1,327	1,327
当期変動額合計	1,232	1	93	1,327	2,682
当期末残高	799	0	63	862	13,711

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,750	241	13,773	△2,916	12,848
当期変動額					
剰余金の配当			△246		△246
親会社株主に帰属する当期純利益			2,136		2,136
自己株式の取得					—
自己株式の処分		△7		26	18
自己株式処分差損の振替		7	△7		—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	—	1,882	26	1,908
当期末残高	1,750	241	15,656	△2,890	14,756

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	799	0	63	862	13,711
当期変動額					
剰余金の配当				—	△246
親会社株主に帰属する当期純利益				—	2,136
自己株式の取得				—	—
自己株式の処分				—	18
自己株式処分差損の振替				—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	950	2	46	999	999
当期変動額合計	950	2	46	999	2,907
当期末残高	1,750	2	109	1,862	16,618

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,065	3,093
減価償却費	578	558
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△5	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2	0
受取利息及び受取配当金	△823	△213
支払利息	93	92
為替差損益 (△は益)	△3	1
持分法による投資損益 (△は益)	72	△30
減損損失	49	—
有価証券及び投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	△40
売上債権の増減額 (△は増加)	△518	469
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△31	40
仕入債務の増減額 (△は減少)	△36	212
その他	299	△36
小計	1,734	4,144
利息及び配当金の受取額	835	214
利息の支払額	△94	△92
法人税等の支払額	△367	△565
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,108	3,701
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△273	△553
無形固定資産の取得による支出	△0	△6
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	62	133
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△4	△500
貸付けによる支出	△990	△523
貸付金の回収による収入	914	931
その他	64	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△227	△520
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△500	△1,600
長期借入れによる収入	800	1,800
長期借入金の返済による支出	△1,955	△2,125
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△136	△246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,791	△2,171
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	92	1,008
現金及び現金同等物の期首残高	2,212	2,305
現金及び現金同等物の期末残高	2,305	3,313

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象事業の単位で構成しております。

「砂糖事業」は砂糖を製造・販売し、「バイオ事業」は乳糖果糖オリゴ糖及びサイクロデキストリンを製造・販売しております。「その他」については、主にニューE S Rビルの一部を第三者へ賃貸しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	29,633	1,798	—	31,432	—	31,432
その他の収益(注4)	—	—	118	118	—	118
外部顧客への売上高	29,633	1,798	118	31,550	—	31,550
セグメント間の内部 売上高又は振替高	27	38	16	82	△82	—
計	29,660	1,837	135	31,633	△82	31,550
セグメント利益	2,299	412	65	2,778	△1,283	1,495
セグメント資産	14,059	1,644	1,055	16,759	10,748	27,507
その他の項目						
減価償却費	470	59	14	544	33	578
減損損失	—	—	—	—	49	49
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	326	39	—	366	13	379

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント資産の調整額10,748百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等ではありません。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1) (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	30,816	1,583	—	32,400	—	32,400
その他の収益(注4)	—	—	119	119	—	119
外部顧客への売上高	30,816	1,583	119	32,519	—	32,519
セグメント間の内部売上高又は振替高	48	41	16	106	△106	—
計	30,864	1,625	135	32,626	△106	32,519
セグメント利益	3,858	316	77	4,253	△1,372	2,880
セグメント資産	13,714	1,584	1,043	16,342	13,063	29,405
その他の項目						
減価償却費	449	66	11	527	30	558
減損損失	—	—	—	—	—	—
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	360	122	—	482	51	533

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント資産の調整額13,063百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に預金、本社有形固定資産及び投資有価証券等であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく賃貸収入等であります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり純資産額	500円79銭	605円50銭
1株当たり当期純利益金額	53円95銭	77円91銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,475	2,136
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	1,475	2,136
普通株式の期中平均株式数(株)	27,350,459	27,420,672

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度末 (2024年3月31日)	当連結会計年度末 (2025年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	13,711	16,618
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	13,711	16,618
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	27,379,321	27,446,571



(重要な後発事象)

該当事項はありません。